

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2022年度 最優秀園
奈良市立伏見こども園

本園は、昨年度からの研究をベースに、子どもが探究を深めていくプロセスには必ず「心を動かす瞬間」があることに気付かれました。経験を積み重ねることと蓄積したことをその後の経験に活かすことの両面に着目しながら、「科学する心」が育まれる成長過程についてしっかりと分析・考察しています。その根拠となる各事例には、日常の素朴な遊びの中で、子どもたちが主体的に遊び込みながら、事象への興味や理解を深めている様子が丁寧に記されていました。子どもの気付きや、その子なりの思いを実現していく姿が、幼児期における年齢に応じた探究過程の特徴としての的確に表現されており、他園の参考になる知見が多数含まれています。子どもたちが対象物（水や光、音など）の基本的な性質や、小学校以降の学習にもつながるようなさまざまな発見・体験をしていることに保育者が気付かれていることも、大変素晴らしいことです。

子どもの気付きや心の動きを逃さず丁寧に読み取り、共感や友達との目的の共有・伝え合い、環境構成や思考の援助など、探求を深める関わりを工夫されています。さらに、探求の過程で見られる子どもの姿を意味づけて分類したり、子どもの姿からどのように理解に繋げているのかを読み取って「カテゴライズ」（特徴により類別）したりするなどの分析や可視化の工夫も、「科学する心」の本質に迫る独創性のある取り組みとして高く評価されました。

よりよい保育のために職員全員が同じ方向を向き、チーム一丸となって切磋琢磨し、熱心に実践を積み重ねていることも読み取れます。今後もこの成果をもとに、「科学する心」を育む独自性ある実践と研究を積み重ねて、さらなる保育の質の向上につなげていただけることを願っています。